

報道機関各位

ながおか・若者・しごと機構 事務局長
(ミライエ長岡企画推進室 事業担当課長)



長岡市

インターンシップ参加者の割合が増加 長岡市に暮らす若者への意識調査結果



長岡市とながおか・若者・しごと機構は、市や同機構の施策に若者の視点や意向を反映するため、進学、就職などの進路の岐路に立つ若者を対象にした意識調査を毎年実施しています。

このたび、令和7年度の調査結果がまとまりました。つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、ぜひ取材くださるようお願いいたします。

長岡市に暮らす若者の意識調査

- 調査概要** 進学、就職など進路の岐路に立ち、これからの社会を担う若者を対象に、長岡の若者の取り巻く環境や進学、就職、定住などの意向を把握する調査。
※ 市内在住の17歳と、市内大学・高専・専門学校に通う卒業年の学生を対象に、隔年で対象を変えて実施。
- 調査期間** 令和7年11月4日（火）～11月28日（金）
- 対象** 市内4大学1高専15専門学校を令和7年度末に卒業する学年の学生 1,795人
- 調査項目** 進学・就職先の地域、進路選定で重要視する項目、インターンシップの参加の有無など
- 調査方法** 各学校でWEB回答フォームのURLを学生に配布し、WEBにより回答
- 回収率** 回答数 380件 回答率 21.2%
回答者のうち大学生 38.2%、専門学校生が 61.8%
- 調査結果** 結果概要は別紙のとおり。
※調査報告書は下記サイトに掲載しています。
<https://n-wakamonokikou.net/01/01-chosa.html>
- 実施主体** 長岡市、ながおか・若者・しごと機構

問い合わせ：ながおか・若者・しごと機構 事務局長 田中
(ミライエ長岡企画推進室 事業担当課長)
Tel 0258-86-6008

《意識調査から見た傾向》

1. 回答者属性【P. 1】 《大学生・高専生の割合が増加》

大学生・高専生	145人	構成比	38.2%	(前回調査(R5)	54人、15.5%)
専門学校生	235人	〃	61.8%	(前回調査(R5)	295人、84.5%)

2. 進路(就職・進学)先地域【P. 13-15】 《県内は7割弱と依然として高い割合》

- ・1位が「長岡市」42.6%、2位が「県内(長岡市・新潟市以外)」19.2%。新潟市6.6%と合わせると、前回調査よりも県内が8.3ポイント減少したが、全体の68.4%を占めている。R3、R5の調査では、県内の割合が7割を超えていたため減少しているが、依然として地元への就職や進学を予定する学生の割合が高くなっている。
- ・地域を選んだ理由については、1位「志望する企業・機関があるから」30.0%、2位「志望する学校があるから」17.6%、3位「志望する業種があるから」12.4%となっており、全体の60%の学生が自身の志望に基づき進路先の地域を選択している。

3. 長岡市内での就職の検討【P. 21】 《出身校が長岡市内の学生の約7割が「検討した」》

- ・「検討した」と「検討しなかった」が拮抗するも、「検討した」の割合が53.4%と「検討しなかった」を上回った。なお、出身校の所在地が長岡市内の学生のうち、70.6%が「検討した」と回答している【P. 96クロス集計結果4】。

4. 市内企業への就職活動で感じるデメリット【P. 22-25】 《やりたい業種や魅力を感じる企業・機関がない(少ない)と感じている》

- ・「特にない」が36.0%で前回同様1位。市内で就職したいと活動する学生の約4割はデメリットを感じていない。デメリットとして挙げたのは、「やりたい業種の企業・機関がない(少ない)」18.2%と最も高く、「雇用条件(給与、福利厚生など)」12.8%、「やりたい業種はあるが、魅力を感じる企業・機関がない(少ない)」12.3%と続いた。

5. 就職先を決める際に重視したこと【P. 55-59】 《労働条件・待遇面を重視する回答の割合が増加》

- ・男女とも「仕事内容に興味がある」(男性27.1%、女性30.9%)の割合が最も高くなった。男性は「福利厚生が良い」15.5%、「自分の能力を活かせる」14.2%、女性は「会社の雰囲気が良い」12.6%、「土・日・祝日に休める」11.7%が続いている。前回調査(R5)と比べると、労働条件や待遇面を重視する回答の割合が増加し、上位となっている。

6. インターンシップと就職【P. 60-74】 《参加地域は「関東」の割合が最も高い》

- ・「参加したことがある」が44.7%で前回調査(R5)よりも13.2ポイント増加した。参加者の割合は、調査を重ねるごとに増加している。参加したインターンシップの開催地域は、前回3位の「関東」が最も高く、「新潟県内(長岡市内)」「長岡市内」を上回った。また、男性は「進学するので、今すぐ就職にはつながらないが、今後の検討材料としたい」が51.3%、女性は「インターンシップ先企業に就職することになった」が37.6%と最も高く、インターンシップが学生の企業理解を深め、入社意思にもつながっていることが伺える。